

このコーナーでは、静岡の企業が有する隠れた地域産業史的な建造物や文化財などを掘り起こし、紹介します。

昭和30年代の映画全盛期の 雰囲気を伝える静岡最大の映画館



オリオン座は客席1193席

静岡で最初に映画が上映されたのは明治30年（1897）6月15日、静岡市寺町3丁目の芝居小屋「若竹座」でのこと。静岡活動写真株式会社（現・静活(株)）の創立は大正8年（1919）。8月にキネマ館、翌年7月に電気館を開館。昭和2年に歌舞伎座を合併吸収。昭和6年には、静岡でのトッキー第一作が歌舞伎座で公開。しかし、昭和15年の静岡大火、昭和20年の静岡大空襲で静岡市は焦土と化しました。

戦後は、昭和26年12月31日に旧オリオン座（1000席）を開館。昭和32年6月25日には、5階建ての総合劇場「静活会館」を開館。1〜4階が松竹映画封切の客席1193席の静岡松竹劇場。地階が洋画封切りの有楽座。静活会館の正面には、点描画法で知られるスーラの代表作「グランドジャット島の日曜日の午後」を大壁画に復元。贅沢なロビー空間、広いホール、実演もできる大きなステージ、舞台裏には楽屋部屋や風呂を設置。完成記念として3日間にわたり、松竹のスターが来演。松竹映画の公開にあわせて松竹歌劇団の豪華なレビューを仕掛け、静活会館は映画と実演の殿堂になりました。

さらに同年12月28日には、静活文化会館を落成。1階にアイスパレス、レストラン、2階に静岡大映、屋上にプラネタリウム、喫茶、プレイランドを設け、娯楽の殿堂としてにぎわいました。

映画館は当時、昭和通りと七間町通りの交差点周辺に7館、少し離れて6館と、中心部に13館が集結。映画は全盛期を迎えました。

その後、テレビの普及とレジャーの多様化で、映画館の入場者数は減少傾向に。昭和46年10月19日に旧オリオン座が閉館すると、静岡松竹劇場は「オリオン座」に改名し、現在に至ります。

静活株式会社
静岡市葵区七間町17
TEL.054-254-1486
<http://www.shizukatsu.co.jp/>



スーラの代表作を大壁画に復元



昭和32年から使われている映写機



ホール



ロビー



舞台裏には出演者用楽屋部屋などを設置。